

学習指導改善調査 実践モニター 実施計画書

私のプロフィール		
氏名	相澤 勇弥	
勤務先	長岡市立山古志小学校	
○ 担当学年・実践教科	4 学年 ・ 国語科	

★ 取り組みの方向

私の教育理念	教師の『たい』 × = × 子どもの『たい』 (～したい、～させたい) (～したい、～なりたい)
学級の実態	<p>この2つの「たい」が一致するように心がけている。特に教科においては、その学習が必要になる場を大切にするために、総合学習や各種行事・活動とかかわらせ、大きな目標を達するための手段となるように学習の場を設定するようにしてきた。</p> <p>このことで、学習に対する有効感を感じ、学習することの意義、大切さに気付くことができるようになることを期待している。また、総合学習、行事・活動の中で、学習から得た力を活用することから、学習を通して一人一人が自分自身へ自信を持つことにつながるとも考えている。</p> <p>昨年担任した3学年を引き続き担任している。昨年度は、書くことと読むことの往復の中から、段落意識をきちんと持つことに力を入れた。段落の役割（話題提示・問題提起・答え（理由）・まとめ等）を学習したり、KJ法を応用し、書く材料を内容の異同に沿って仲間分けしたりすることで段落意識の形成に役立つ思考を育成してきた。</p> <p>このことで膨大な述べたい事柄を整理して書く、または整理して受け取る（読む）力を育成できた。国語での学習が性の指導時の母への手紙や阪之上小学校の児童へのお礼の文集等で活かされた。答えや理由をナンバリングして書きすすめたり、段落の内容を一文で知らせるトピックセンテンスを自然に使えるようになったり等と活用する姿が見えた。</p> <p>しかし、昨年は、段落意識を中心に論理性を学習することに力を入れたため、調査情報等の整理を主な学習活動としていた。そのため、自分自身が書く事柄を作り出したり決めたりするということの育成が弱かった。自分で内容を決める題材では書き出しの速さや集材の量・質にばらつきが出る。また、並列的で情報の軽重がない題材で書いてきたことが多かったため、特に伝えたいことを、思いを持ってはっきり決めきれない弱さもあった。</p>
今後の教育の方向	<p>今後も「段落」を中心に論理的な考え方の方法を学習することは、中学年担任として大切にしていける。今年度は、昨年の学習からの積み重ねを考え、自分で伝えたいこと、それが特に伝わるように筋道立てて書く力を育成していきたいと考えた。</p> <p>昨年学習した、書きたいことをKJ法を応用して付箋紙で整理し、段落化していく力を生かしていく。内容で分けた付箋の仲間から伝えたい順序を理由をはっきりさせながら決めていく学習を中心に展開していく。その中で、伝えたいこととその周辺材料の有機的連関に気付かせることで、論理性を高められるように学習を進めたい。読むことや話すこととのかかわりを大切にする。</p> <p>また、中心を決める際には、相手意識や目的意識が鍵になると考えているため、こちらについては昨年に引き続き、各種行事・活動や総合学習と関連させることを原則の方針として取り組む。</p>